

# 高温に対応した 水稲の栽培管理について

8月4日気象庁発表の1か月予報によると、向こう1か月は晴れの日が多く、平均気温は高い見込みです。

気温が高いと水稲の登熟が早く進行し、刈り遅れによる品質低下が懸念されますので、以下の対策を必ず実施しましょう。

なお、利根川水系は取水制限を継続中です。用水は有効に活用しましょう。

## 1 水稲の生育状況

作 型	生 育 状 況
早期栽培 (4月下旬～5月上旬植え)	出穂は平年より3～5日早まりました。 中早生種では登熟中期～後期を迎えています。 刈り遅れしないように注意してください。
早植栽培 (5月中下旬植え)	出穂は概ね平年並みです。 中早生品種では穂揃い期～登熟中期、晩生種では出穂期を迎えています。 適正な水管理により、幼穂の保護と根の活力維持に努めてください。
普通栽培 (6月植え)	これから出穂期を迎えますが、概ね平年並みの出穂が予想されています。 適正な水管理により、幼穂の保護と根の活力維持に努めてください。

※ 中早生種 : コシヒカリ、キヌヒカリ、彩のきずな  
晩生種 : 彩のかがやき

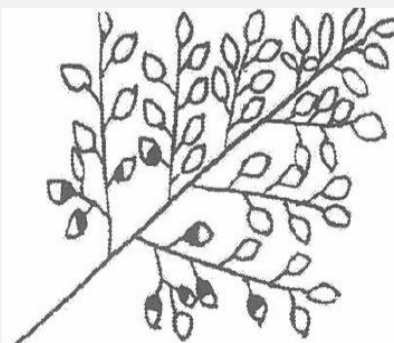
## 2 今後の技術対策

### (1) 水管理

- ✓ 出穂後20日間が高温による白未熟粒発生の危険時期です。
- ✓ 出穂期前後1週間は幼穂保護のため、深水管理とします。その後は間断灌水を行い、根の活力維持に努めてください。
- ✓ 間断灌水は3～4日おきに入落水を繰り返します。水はけの悪いほ場では、排水口を開けて強制的に落水し、2～3日田面を露出させましょう。
- ✓ 早期落水は、品質低下を助長します。落水は極力出穂30日経過してから行いましょう。

### (2) 適期刈取り

- ✓ 刈り遅れは胴割米や茶米の発生が増加し、品質を低下させます。
- ✓ 高温条件下での登熟は、刈取適期が前進するので、帯緑歩合を目安に、2～3日早刈りするよう心掛けましょう。
- ✓ 「彩のかがやき」は、穂基部の緑色が抜けにくいので注意しましょう。



わずかでも緑色が残っている籾を帯緑籾といいます。

品種名	帯緑歩合
コシヒカリ	15～10%
キヌヒカリ	35～15%
彩のきずな	早植 50～10%
	普植 40～15%
彩のかがやき	早植 90～45%
	普植 55～25%

こまめな水分補給と朝夕の涼しい時間での作業を心掛け、  
熱中症を予防しましょう！

